

平成 18 年 5 月 18 日

2 号機点検停止の状況について

2 号機は定格出力にて運転中のところ、平成 18 年 3 月 14 日、原子炉再循環ポンプ*¹ (A) がインバータ*² 故障により自動停止したことから、詳細調査および対策を実施するため、プラントを手動停止することとしました。(平成 18 年 3 月 20 日お知らせ済み)

同号機は、定格出力運転中に発電機出力が定格出力を若干下回る傾向*³ が確認されていたことから、原子炉停止後に点検を実施したところ、主復水器*⁴ 内のタービン抽気系配管*⁵ の 2 箇所をつなぎ部が損傷していることを確認しました。

つなぎ部は、タービン抽気系配管の熱膨張を吸収するため伸縮可能な構造になっていますが、今回の損傷は、1 箇所をつなぎ部のすきまに侵入した異物などが伸縮の繰り返しでつなぎ部を圧迫し損傷に至ったものと推定いたしました。また、当該損傷部から漏えいした蒸気の影響により、他の 1 箇所をつなぎ部も損傷に至ったものと判断いたしました。

損傷が確認された 2 箇所をつなぎ部については、異物などの侵入防止を考慮したものに置き替えました。

本事象による外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 原子炉再循環ポンプ

原子炉圧力容器の中の水（冷却材）を循環させるポンプで、運転中はポンプの回転数（スピード）をインバータで制御することにより、原子炉の出力をコントロールしている。このポンプは2台設置されている。

* 2 インバータ

直流電源を所定の周波数の交流電源に変換する装置。

* 3 発電機出力が定格出力を若干下回る傾向

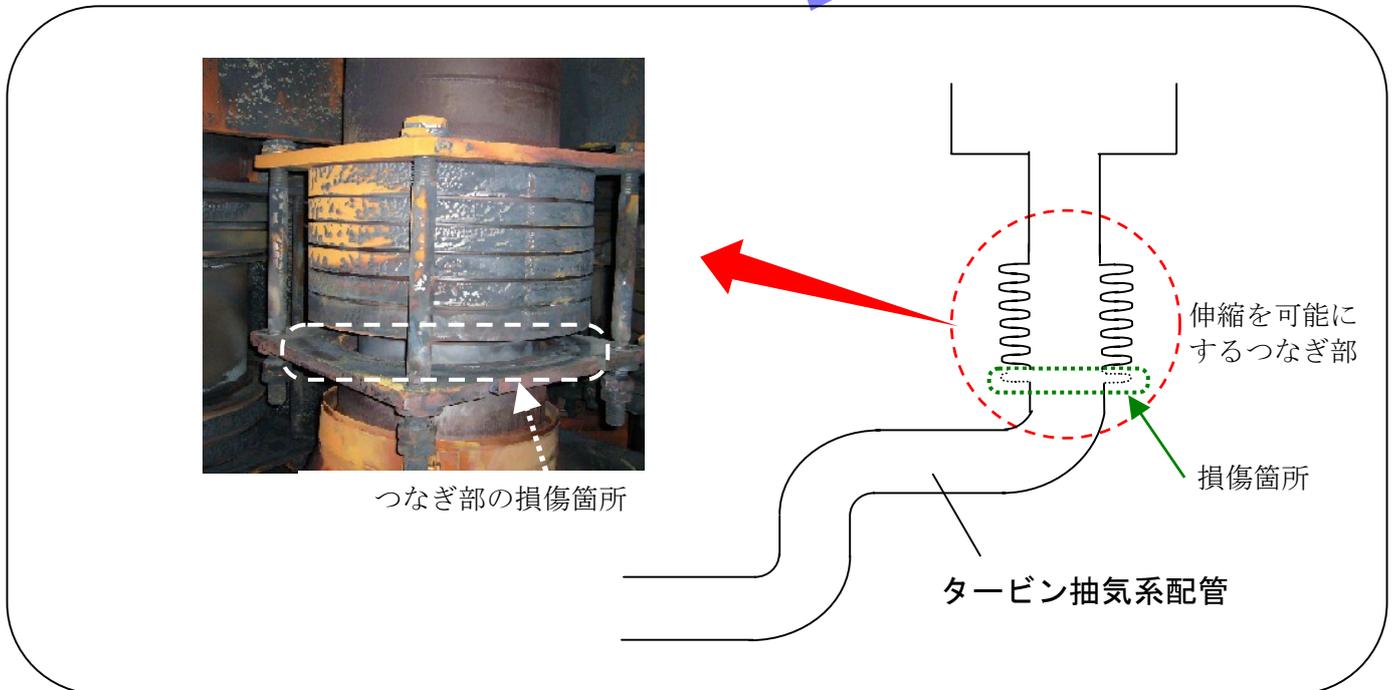
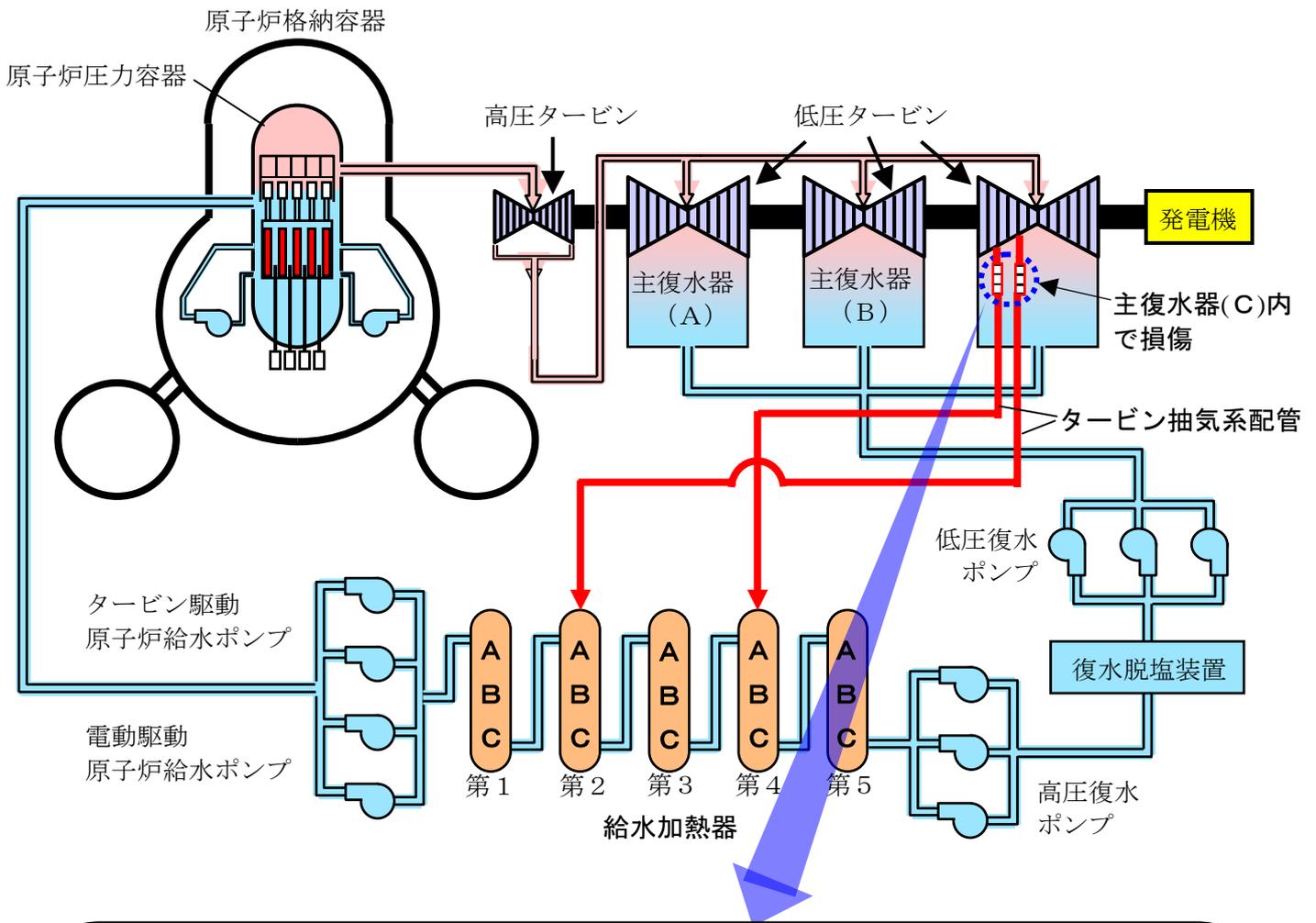
平成18年2月7日午前7時頃、発電機出力が約1～2千キロワット低下する事象が発生したため関連パラメータを調査したところ、第2給水加熱器（C）への蒸気量減少が考えられたため、タービン抽気系配管からの蒸気漏えいの有無を現場確認したが、放射線モニタなどに異常は確認されないことから、タービン抽気系配管が主復水器（C）の内部で漏えいしていると推定した。

* 4 主復水器

タービンを回した蒸気を海水により冷却し水に戻す機器。

* 5 タービン抽気系配管

蒸気タービンから蒸気を抽出して給水加熱器等へ導く配管。



2号機タービン抽気系配管の概要図